

令和7年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791600436		
法人名	ベタープレイス株式会社		
事業所名	グループホーム めいの家		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府吹田市五月が丘北6-12		
自己評価作成日	2025年6月7日	評価結果市町村受理日	2025年8月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ時代を越えてまた、皆の願いが叶うように心から落ち着く場所になればいいと新しく始めた事は「大切な家族と共に」です。自身の病で共に暮らせない猫のアメリカを迎えました。離れたくない！という気持ちがかかるので犬と一緒に入所をOKしました。新しい取り組みです。

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2791600436-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	2025年7月2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年、管理者として運営に関わってきた代表が、利用者・家族・職員への熱い思いから新たな理想を掲げ、7年前に事業継承したグループホームです。「Be Smile・Be Happy(笑顔で幸せに)」の理念を掲げ、出逢ったみんなの「夢叶う今日を」に取り組んでいます。「明日死んでも悔いがない今日を創る』『今日の希望は今日叶える』との代表の揺るぎない考えは現場に浸透し、利用者の楽しいエピソードは尽きることがありません。「認知症になってもペットと一緒に暮らせるホーム」のめいの家は、人も犬も猫も一緒に住んで当たり前の日常がかけがえのないものとなっています。毎年、地域の子ども達も楽しみにしているクリスマスイルミネーションの昨年のテーマは、人・犬・猫、生きるもの全てに優しい世界をとの願いを込めた「共に」でした。「うちの自慢はみんなが笑顔。喜んでもらうと自分も楽しい」と職員が語るように「職を楽しみ・職場を楽しむ」風土は、職員の定着率の高さに現れています。代表や管理者・職員が利用者の毎日を「楽しそうに、嬉しそうに」語る表情から、理念の浸透と確かな実践が伺え、さらなる進化が楽しみなグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「Be smile Be happy(笑顔で幸せに!)」を理念としています。「ここにきてよかった」「あなたに会えてよかった」「生きていてよかった」様々な「よかった」を応援し、地域の自治会、子供たちの協力を得て、夢かなえあう・・・に向けて取り組んでいます。	「Be Smile Be Happy(笑顔で幸せに!)」を理念に掲げ、「地域に根ざし心豊かに暮らしていこう。」の運営方針の下『「明日死んでも悔いない今日を創る』『今日の希望は今日叶える』』の考えを大切に、代表・管理者以下職員一丸となり実践しています。代表や管理者・職員が利用者の毎日を「楽しそうに、嬉しそうに」語る表情から、理念の確かな実践が伺えます。	「Be Smile Be Happy(笑顔で幸せに!)」の理念の実践が、地域にさらに広がり、笑顔で幸せな地域作りの核となることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々を巻き込んだの行事はビンゴ大会を昨年行いました。楽しんでいただけ、沢山の方に来ていただきました。また、買い物に行くと話しかけていただいたり、犬の散歩では犬友ができたり、ご近所さんが獲られたユーフォーキャッチャーの景品の人形を沢山持ってきていただき利用者さんが「かわいい」と喜ばれたり、細々とはありますが日々のコミュニケーションもできているように思います。子供たちからはベランダに見える愛猫アメリーが「かわいい」とひそかな人気になっています。	「地域の中に溶け込む活動」は、今では、地域にとってなくてはならない存在となっています。クリスマスには医療従事者へのエールと感謝を込めて玄関前の駐車場にブルーライトのイルミネーションを輝かせています。地域住民から「点灯は何時ですか」と問い合わせが来るほど楽しみに待たれています。昨年のテーマは、人・犬・猫、生きるもの全てに優しい世界をとの願いを込めた「共に」でした。イルミネーションを見ながらのビンゴ大会には駐車場いっぱい地域住民が集まりました。ビンゴの景品は、地域の方々への1年の感謝と考え、事前に子ども達が欲しいものをリサーチし、プレゼントしています。めいの家の愛犬の散歩時には犬友を介して地域住民との絆を深めています。ホームの実践は、地域からも理解・支持され、「認知症って特別ではないね」との理解にも繋がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イルミネーションは毎年変わらず点灯しつつつけております。地域の方が写真を撮りに来てくださったり、集まってくれたのでうれしい限りです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスが落ち着いたといえど度々の流行により開催に至れずにおりましたが、2024年4月より再開いたしました。	運営推進会議は2か月に1回、年6回開催しています。家族会役員、地域住民代表、地域包括支援センター職員、グループホーム主治医、訪問看護師、ホーム職員等がメンバーとなり話し合っています。会議では、ホームの活動状況や取り組み等を報告し、参加者から意見・評価・助言を得て、ホームの運営に活かしています。 ホームの旅行の話の際には、「留守中の防犯は自治会に任せて」と協力的な声を聞くことができホームは感謝しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム部会に参加しております。	市担当者とは都度連絡をとれる関係を築いています。地域包括支援センターより、亡くなった住民の飼い猫の今後について相談があり、受け入れに際して地域包括支援センター職員、ホーム職員と協議を重ねる機会があり、市との連携がより密になりました。市主催の介護の日イベントでは、市内のグループホームから利用者が参加し、コーラスの発表を行いました。市内グループホーム連絡会にも参加しています。他事業所見学では、改めて自分たちの取り組みを振り返ることができました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて定期的な研修を行っております。今年度は6月末に実施を予定しております。	「身体拘束ゼロの実現をめざします」とマニュアルを作成し、研修会を繰り返して行って、身体拘束をしないケアを実践しています。玄関は中からはいつでも開錠が可能です。利用者はエレベーターで自由に移動をしています。階段も自由です。利用者の外出したい仕草を見つけたらいつでも職員と一緒に出掛けます。利用者が一人で外に出ることがあっても、近所の住民とも顔見知りで、ホームまで送って来てくれるほどの関係にあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて定期的な研修を行っております。今年度は6月の末に実施を予定しております。また忌憚ない意見を仕事中でも話し合えるよう意見交換を職員で行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて研修を行っております。また業務中でも細部にわたり事例に根差した権利擁護に対する話をすることで職員に理解を深めてもらっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を見ていただき、説明しています。理解を得られるまで細部にわたり説明し、幅広い情報の提供を時間をかけて行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自由面会になり、日々の様子を伝えやすくなりました。電話で様子を伝えることも続けており、姿を見る機会とタイムリーで迅速に異変を伝える電話を併用できることで家族の皆さんにも安心感を持っていただけているのではないかと考えております。	面会は自由です。面会に来ることが困難な家族には、電話やLINEで日常の暮らしぶりを伝えています。家族会があり、サークル活動や行事を通じて、家族同士や職員との交流が行われています。一泊旅行や年間の行事・大掃除等にも多くの家族が参加しています。コロナ禍の面会等の対応も家族会に相談しながら進めてきました。主体的にホームの活動に関わる家族会の存在は、ホームの大きな応援団となっています。家族に紹介されて入居したケースも複数あります。外部評価の家族アンケートの回収率の高さにも、家族とホームの関係の良さがわかります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に職員会議・各フロア会議で意見を聞くようにしています。また管理者は個別に職員とも話し合いの機会をもっており、職員側から話があるとの声掛けもあります。	定例の会議では、サービスの改善を話し合い、ケアカンファレンスも行っています。職員それぞれの話題は枝葉を生み、細かい点や周辺の話に広がって、長時間に及ぶこともありますが、互いの原動力となる貴重な時間となっています。年に一度、他職員から「良いところ・尊敬するところ・好きなところ」「苦手なところ・直してほしいところ・悪いところ」の評価を記入してもらい、自分自身を再確認する機会ともなっています。年間の多くの行事は、職員が主体的に取り組み、「うちの自慢はみんなが笑顔。喜んでもらうと自分も楽しい」と職員が語るように「職を楽しみ・職場を楽しむ」風土は、職員の定着率の高さに現れています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者だけではなく職員間の意見も取り入れ、職員個々の実績や努力を把握・査定するように努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が二か月に一回の月替わりで研修を主宰する取り組みを始めました。教える側に回ることで知識を深め、また資料作りの困難さを感じることで他者の発表を真剣に聞く姿勢も育成できていると感じております。勤続年数の長い職員が多いことで、振り返ることが少なかった基礎的な知識についても学びなおし、日々進歩する研究や知識を取り入れられるよう、努力しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流は未だラインで行われています。まれにではありますが食事会に参加する場合があります。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時より担当になるCWが細かく、本人の希望・夢・生活歴を聞き取り、入所から一か月を目途に、本人・家族・職員と担当者会議を行っております。個々、利用者の性質や生活へのなじみ方には変化がありますので、定型的にならず本人に合った生活へ馴染み方を模索しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い・考え・疑問や不安について聞き取り、生活について一緒に考えています。また密な連絡や話し合いをおこない、不安や疑問は遠慮なく話してもらえよう、何でも言える関係性を目指しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入念に丁寧に聞き取りをします。常に最善・必要なことは何か、広い視点で職員間で情報共有し、落ち着いた生活に慣れていけるように見守っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来るかできないか」ではなく、まずは「やってみてもらおう」から全ては始まります。利用者自身が出来ないと思っても出来ることは沢山あり、小さなことでも皆で分け合い実行を積み重ねることが生活を営むことだと考えます。小さなことから、自身ができることはまだまだあると知り、可能性が広がる手伝いをしていく生活を作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子をメールで写真付きで伝えたり、変化があるときはすぐ連絡し一緒に考えてもらっています。同じチームであること、信頼しあえる関係を作ることを目標に関係を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との時間は積極的にとってもらようようにしています。またなかなか出かけられないような故郷の話などを聞いて、一緒に今どうなっているかグーグルで故郷を一緒に見たりしていると喜ばれます。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。毎日の外出や、地域やホームの行事を通し、隣近所とも新しい馴染みの関係ができ、子ども達の成長ぶりを見ることも、利用者の楽しみとなっています。昨年は、ペット(犬)連れの利用者を受け入れました。入居に際しては工夫を講じ「一緒に暮らし続けたい」という思いを叶えることができました。職員は、利用者一人ひとりの長い人生に思いをよせてケアにあたっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	過干渉になりすぎないようにしています。それぞれが、それぞれに関係と友情を作っています。仲良くなれなくても仕方がない場合もあります。人がたくさん集まる場所で、ちょうど良い距離感をそれぞれが保てるよう、適切な介入を心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	折々でご家族の皆さんからメッセージや花や米が送られてきます。亡くなった利用者さんのご家族が、別のご家族の入所申し込みをされたりすることもあり、関係が続いていることをうれしく思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートにある項目を担当職員がゆっくり聞き取るところから、それぞれの夢や、これからの生活に対する希望を探し、夢かなうよう支援をしています。	『「明日死んでも悔いない今日を創る」』『今日の希望は今日叶える』との代表の揺るぎない考えは現場に浸透し、利用者の声に耳を傾けることを大事にしています。日常の関わりの中での新しい気づきや発見はグループLINEで共有しケアに活かしています。大好きな職員との誕生日デートを楽しみに待つ利用者もいます。離職者が少なく、利用者と職員の馴染みの関係ができていることも、質の高い個別支援に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートにある項目を担当職員がゆっくり聞き取り、見えてきた生活歴・性格を把握し、家族からの聞き取りや自身の思い、以前の担当ケアマネ、医療機関など様々な視点から本人を知るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、生活歴も違うため過ごし方は様々です。できるだけ、個々にあった健康的で楽しい生活を作れるよう、職員で情報共有し、余裕をもって対応できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本筋は「本人の夢を叶えること」家族の要望も含め、今一番大切なこと、今一番必要なこと、楽しく暮らすための課題を常に探しています。	「本人の夢を叶える」を基本視点として介護計画を作成しています。目標が「青春を楽しむ」「新しい趣味や得意なことが広がっていく」「自信を持って生活する」等、楽しい暮らしが想像できる計画です。日常的に支援していることを組み入れ、簡潔で専門用語は使わない、利用者・家族に分かりやすい介護計画となっています。。計画は、3か月毎に見直し、会議で毎月カンファレンスを実施しています。介護記録がIT化された後も、定例文利用などで簡略化されることなく、利用者の声や表情がわかる記録となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はもちろん、連絡欄を活用しています。問題がある場合は早急に集合し話し合う場合もあります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに囚われていては叶えられないことが多いと、時々感じます。「やったことがない」を楽しめる職員と働いている事を壁にぶつかるたびに感謝しています。出てくる様々な意見から出来る限りの最善を掴みだせるように、楽しめるように考え実行しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方が挨拶してくれる、施設の周りで何かあれば教えてくれる、些細な事ですが、地域に馴染んでいないと起こらない事が度々あります。外に出たら挨拶してくれる人がいる事に職員は感謝しつつ、利用者には当たり前だと思い続けてほしいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各階月に2回、往診ドクターの診察があります。歯科・鍼灸の訪問もあります。又、精神科・眼科・皮膚科などは地域のかかりつけ医を作っています。職員と家族が同行し、安心して受診できるようにしています。より適切な医療を受けられるようにと支援しています。	主治医の来訪は各フロア月2回、週2回の訪問看護師と共に利用者の健康維持に努めています。職員は日常的变化を見逃さず、協力医療機関との連携を高め、安心な日々を送れるよう努めています。週1回の歯科医の訪問もあり、歯科衛生士のアドバイスの下、口腔ケアにも注力しています。緊急時や他科診療には職員が家族と共に付き添って、状態の説明などを行い、スムーズな診療の手助けをしています。家族が同行できない場合も、詳しい経過報告を怠りません。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師と訪問看護師の連携と「いつもと違う」という介護職員の気づきを大切に、少しでも早く適切な診療を受けられるように職員一同で誠意努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携医の最終判断により入院を決定することが多いですが、入院後は家族と職員が常に連絡を取り合い、入院先の主治医の意見・経過なども一緒に聞き一日も早い帰所に向けて積極的に支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては主治医の指示が出た段階で家族と話し合いを重ね、主治医・訪問看護・ケアワーカー・家族(本人)同席のもと方針を決定しています。そして職員全員で、それぞれの看取り方を考え進めます。また延命するかどうか、看取りについての希望確認書を入所時に家族へ記入していただいています。希望確認書の意向変更は随時可能で、話し合いの際にも意向の確認をし、ケアに反映しています。	入居時の終末期や看取り指針の説明に加え、状態が変わるたびに、本人や家族の意向がよりよく反映されるよう、主治医の指示を仰ぎながら、チーム全員で話し合いを重ねます。医療措置を望む場合は入院等の援助を行い、ホームでの看取りを望む場合は「死もまた人生の一場面」と捉え、変わらぬ暮らしの中で穏やかな最期を迎えられるよう見守ります。家族の希望があれば、当人の居室に泊まり、共に過ごせるよう配慮しています。家族の意向は常に化するものと柔軟に捉え、悔いのない様にその思いに常に寄り添っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナウイルス以降は感染症対応についての話し合いが多くなっておりますが、発熱や体調不良、事故による外傷、初動はどのように行い、誰に連絡するかを「わかっているだろう」ではなく、折に触れ話し合い続けています。また必要な物資は在庫確保し、何があっても対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施するとともに、ハザードマップで被災した際の安全な場所などについて確認する、災害時の行動について一度考え直す研修を実施しています。	定例の消防訓練を行い、振り返りを記録しています。策定したBCP(事業継続計画)には、指示系統を明確化し、一時避難から避難所への移動など事業所独自の動き方を詳細に記載しています。また、それを元に研修を行い、忌憚ない意見を出し合う中で、災害緊急時に対する職員意識がより一層高まりました。発災後3日分の献立や、物資到着が遅れた場合の心得なども立案し、一丸となって「生活を守る」行動が浸透していくよう努めていきます。備蓄品は各フロア事務所に保管し防災の日に更新、飲料水は地域からの預かり分と共に隣接の職員寮に保管しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、何を感じ、望み、楽しみ、喜ぶか、情報収集と共有をしています。常にともにいる職員に求める関係性もそれぞれに違いますので、できるだけ対応するようにし、安心して関係を築けるようにしています。	喜怒哀楽、全ての感情を互いに受け入れることを、人格の尊重と捉えています。性格も生きてきた人生も違う利用者それぞれが、最も暮らし良い日々の継続を大事とし、言葉遣いや名前の呼び方に至るまで、その人、その日その時に、自然にわかり合い、合わせられる関係性を築けるよう努めています。プライバシーや尊厳に関わる研修も欠かさず実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話や言動から望むことを探るようにしています。必要に応じて職員が自己開示することで現れる、利用者の望みを引き出すようにも努めています。これまでの習慣や望みも大切にしつつ、新たな興味や願いも受け止めたいと思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に業務表はなく、自由に日その日を作っていくようにしています。食事の時間も厳格に決まっているわけではありません。一日の流れのようなものは生活する誰しもにあるように、大まかな流れはありますが、時には全て止めてたこ焼きパーティーを楽しんだりしています。個々で楽しみつつ集団生活としても纏まり利用者が生活を作ってくれるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の際には利用者と美容師が話し合い、髪型を決めています。また利用者が好きな色の服やテイストを知り、インターネットや代行で購入したり、家族が持ってこられたりしています。カラフルな服が好きな方が多いです		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けをしてもらったり、食事の用意を手伝ってもらったりしています。片付けも積極的にしてもらっています。食べたいものがあれば、メニューに入れたり、おやつに作ったり買ってきたり食べに行ったり、誕生日には一人でホールケーキを食べたり。食べる喜びを楽しんでもらえるように工夫しています。	青果店が納入する新鮮な食材で、調理専従の職員が作り出す食卓には、優しい家庭料理や、耳にも目にも新しいメニューも登場し、食を通しての喜びを提供したい職員の気持ちが込められています。旬の食材が持ち込まれ、献立を変更することもあります。誕生日を迎える利用者には希望を聞き、皆で当人の好物を食べ祝います。またそれぞれの嚥下状態に合わせて、仕上げや、調理法にも丁寧な工夫を加えています。外食に出かける機会の少ない間も、変化を楽しむことができました。「紫陽花まつり」では職員手作りのおやつでパーティを開催、利用者のいきいきとした表情が見られました。また、職員も一緒に同じ食事をとっており、「うちの自慢は食事です」と楽しげに話します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表は毎日つけています。食意が低下した人、体調不良者は食事量も記録しています。飲み物はコーヒーや紅茶など飲みたいものを選んでもらうことで、水分摂取を確実にしつつ、無理なく飲んでもらえるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週火曜日に訪問歯科に来てもらい、口腔内の状態のチェックや清掃をしてもらっています。また毎日の口腔ケアも歯科衛生士のアドバイスをもらい、適切に行っています。またケア用品についても相談することで口腔内の状態を良好に保つ努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	完全自立が難しい利用者に関しても使用感の観点からも布パンツにパットを使用してもらおうようにしています。適時トイレ誘導を行うことで汚すことを少なく、快適に過ごしてもらえるようにしています。ただ、パットが「悪」という考えはやめています。自立を促される事が重荷にならないようにすることも必要なケアの一端であると考えます。パットをしているから安心して時間を気にせず楽しめるという観点もあるからです。利用者の生活と精神的な「楽」を考え、できるだけ不快感なく快適に心軽く過ごしてもらえるように日々考えております。	毎年開催されるバリアフリー展(福祉用具展示会)には全職員が出向き、それぞれに関心のある分野を視察します。排泄の不安や不快感が理由で動きを阻むことのないよう、排泄ケアのブースからは、新しいパッド等の情報を持ち帰り、コスト面(利用者負担)も課題に挙げ職員間で検討を重ねます。適時のトイレ誘導や、夜間安眠を重視した介助により、自尊心を損ねることのない排泄を心がけています。体調不良や精神不安定の一因とならないよう、食を通して腸内環境を整えることにも注力しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	痛みなく気持ちよい自然な排便が最善かと思えます。食物繊維を積極的に摂取し、適時の運動、十分な水分摂取、バナナやヨーグルトなど腸内環境に良いものを食べてもらうようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を固定はしていませんが、週に2から3回は入ってもらっています。意思決定できない方に対しては促しますが、決定できる方に関しては入りたいとき対応です。入浴を好まない方に関しては、入浴剤を選んでもらったり楽しく話したりしながら、楽しむ気持ちで入ってもらえるようにしています。	手すりや滑り止めを配備した各フロアの家庭用浴槽での入浴時間は、それぞれのペースで過ごすことができます。贅沢な日中の入浴を楽しむ利用者がほとんどですが「寝る前に入りたい」という要望にも応えています。戦争体験などの昔話をゆっくり語る人や、早々に切り上げる人もいますが、入浴を好まない利用者はいません。浴槽を跨ぎにくくなった利用者にも2人で、肩まで湯船に浸かれるよう介助しています。好みの入浴剤を選んだり、会話を弾ませながら週2~3回の入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	意思決定が難しい方に関しては適時の休息を促しています。好きなテレビが放送されていたら少し夜更かしをしたり、眠ければ無理に起こさず少しゆっくりの朝食にしたり、好きな色の布団カバーにしたり、気に入った抱き枕を用意するなど、それぞれに合った環境とタイミングを大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの職員が、誰がどんな薬をどんな目的で服薬しているかを理解するとともに、誤薬について医療班よりどれだけ怖いことかを話してもらっています。処方箋には必ず目を通し、服薬変更があった際には個別記録に記載し周知徹底を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者に大小さまざまな役割があります。ランチオンマットを配る人、机を拭く人、盛り付ける人、お茶を入れる人、食器を下げてくれる人、お願いせずともしてくれることもありますし、お願いしていることも沢山あります。これまでの特技を生かしてボタンをつけてもらったり、反対にしたことないけど盛り付けをしてもらったり、新しいことも今までの得意なこともひっくるめて、楽しく生活の一部としてやってもらえたらと考えています。義務ではなく、生活を作り彩るメンバーとしての一端を担ってほしいのです。また、時々是个々として皆には内緒で、その利用者一人のために好物を用意したり出かけたりのこともあります。全体としても個としても楽しみと役割と充実感を持ってもらえたらと思います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近場への買い物、花見にはどんどんと行けるようになりました。またご家族との外出も少しずつ増え、楽しそうな姿を見ることができています。ちょっと出かけて買い食いなんか出来るようになり楽しい限りです。また旅行も再開されました。久々の大勢の旅行ですが、ご家族の参加も多く楽しく安全に過ごせました。帰り際、ご家族から「母と旅行に生きている間にまた行けると思ってたから、すごく嬉しいし楽しかった」と言っていただけでした。今年も行く予定です。	近隣にはコンビニやスーパー、ドラッグストアが点在し、日用品やおやつなどの買い物に職員と一緒に出かけています。「頼むだけでは手に入らない」そんな日常を送る中、家族と共に、皆で出かけた旅行は、特別な日となりました。また、車で出かけるエキスポシティからは太陽の塔も臨め、エキスポ70の話(当時コンパニオンとして活躍の利用者の思い出や家族らと遊びに行った話)に盛り上がることもあります。物価高騰の影響を受け、次回旅行は来年4月開催となりましたが、楽しみを延ばし、それまでの健康維持に努めるのも一つの目標となりそうです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理し、出かけるときに担当職員に渡しています。本人に渡すかどうかは、本人の状態によって判断をしています。使用分は月に一回、領収書で家族に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話したいと訴えがあった際には電話をしています。また家族から届いた手紙への返事や、かかってきた電話の取次ぎも適時行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時々利用者それぞれによって配置を少しずつ変えています。場所が分からなくなってしまう方のために、わかりやすいように案内を張ったり声をかけたり、座りやすい椅子に変えたりします。空気の入替えも皆に聞いてから行います。	コンパクトなリビングダイニングは賑やかで明るく、3階には職員の手による住人(住猫)のためのキャットウォークが天井近くから張り巡らされ、愛猫は廊下からリビングへと自由に移動して利用者と職員の日常を癒しています。パステルトーンの壁紙はコロナ禍の間に職員が手分けして張り替え、優しく落ち着いた雰囲気を作り出しました。居室のドアのフレームも、それぞれパステルカラーの色違いで、自室の区別に役立っています。決して広いとは言えない共用空間は、それ故に「自宅感」を高めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的にリビングにはほとんどの利用者が常にいます。他の方が部屋に戻り寝ているときには一人になれます。仲の良い利用者同士で話す場合や誰にも邪魔されずテレビを見たい場合には、適切な席を用意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていたタンスやベッド、布団などを持ってこられています。小物を飾り、家族の仏壇、好きなキャラクター、人形、猫のカレンダー、お気に入りの服、思い思いのものであふれた部屋でそれぞれが暮らしています。またご自身で選ばれた壁紙を貼ることで「自分の部屋」という認識が強くなっているようです。	「あなたの自由にしていい、あなたの部屋」であることを大事にしています。利用者が少しホームに馴染んだ頃を見計らい、好みの壁紙に貼り替える居室リフォームを行います。黄色いミモザが匂い立つような部屋や、大好きなスヌーピーの絵柄で全面を埋めた部屋、青空に雲・など色や柄を自在に選び、「自分の部屋」が出来上がります。たとえ選んだことは忘れても、部屋に入ると肌で感じる事ができています。過去には、愛妻の位牌仏具に合わせ金色を選んだ利用者もいました。仮住まいでない、落ち着ける住まいとなるよう家族と協力し支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	原則バリアフリーと呼ばれる設備ではありませんが、基本的には職員が常に声をかけられる近さにいるので声をかけつつ生活しています。誰かがそばにいる環境に安心と安全が生まれていればと思います。		